

科 目 名
建築施工管理 Building Construction Management

3 年 前期 2 単位 選択

嘉 戸 通 幸

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(2)，2-(5)

建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準 1 の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
C	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	—	建築計画コース	選択	
	C 4	建築構造コース	必修	

【概 要】

建築施工は多数の複雑な専門工種の施工技術と、これを統合して一つの建築物にまとめる施工管理技術によって成り立っている。「建築施工管理」では地業工事、土工事および躯体工事の工法及びその管理、また現場管理および維持保全などについても学ぶ。

【到達度目標】

- (1) 地業工事および土工事の工法及びその管理について理解する。
- (2) 躯体工事の工法及びその管理について理解する。
- (3) 現場管理について理解する。
- (4) 維持保全について理解する。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 概要説明	「建築施工」および「建築施工管理」の概要を説明する。
② 工事の準備	起工式および測量について説明する。
③ 地業工事 (1)	既製杭工事の各種工法と施工管理について説明する。
④ 地業工事 (2)	場所打ちコンクリート杭工事の各種工法と施工管理について説明する。
⑤ 土 工 事	根切り工事、床付け作業および埋戻し工事について説明する。
⑥ 躯体工事 (1)	主な躯体の工法について説明する。
⑦ 躯体工事 (2)	鉄筋工事について説明する。
⑧ 躯体工事 (3)	型枠工事について説明する。
⑨ 躯体工事 (4)	コンクリート工事について説明する。
⑩ 躯体工事 (5)	鉄骨工事について説明する。
⑪ 現場管理 (1)	品質管理および工程管理について説明する。
⑫ 現場管理 (2)	安全衛生管理および環境管理について説明する。
⑬ 維持保全 (1)	維持保全の概要を説明する。また、点検・保守と修繕について説明する。
⑭ 維持保全 (2)	劣化診断について説明する。
⑮ 維持保全 (3)	耐久性について説明する。
⑯ 定期試験	学生自身による自己評価

【授業方法】

- 1) 板書による説明を行う。
- 2) 必要に応じてレポートを課す。

【学習到達度の評価】

- 1) 授業中に適宜質問を行い、理解状況を把握する。
- 2) 定期試験により、授業全体の理解度を把握する。
- 3) 定期試験終了後、試験内容などの講評を行う。

【評価方法】

- 1) 定期試験の結果で評価する。
- 2) 全授業終了後に学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

- 1 年：建築材料
- 2 年：コンクリート工学、建築施工
- 3 年：建築測量

【教科書・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

【参 考 書】

青山良穂・武田雄二 著「建築施工」学芸出版社
 建築施工教科書研究会 編著「建築施工 教科書」彰国社

【履修上の注意】

- 1) 本講義と「建築施工」は関連があるので、両方を受講することが望ましい。
- 2) この講義では、板書を行うので、ノートをよく取ること。
- 3) 単に、講義での知識の習得を目指すだけでなく、身近にある建築工事現場にも関心を持って貰いたい。

【オフィスアワー】

適宜、昼休み（12:00～1:00）に研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。